

知事対話「県政ひざづめ談議」結果概要

○ 実施年月日 平成19年5月21日（月）

○ 会 場 甲斐市立竜王東児童センター
（甲斐市）

〔司会〕

おはようございます。

ただいまから、知事対話『県政ひざづめ談議』を始めさせていただきます。

それでは始めに、横内知事からあいさつを申し上げます。

〔横内県知事〕（あいさつ）

皆さん、おはようございます。山梨県知事の横内正明でございます。

今日は皆さん、お集まりをいただきましてありがとうございます。

今日お集まりをいただいたのは、子育て最中の若いお母さん方と、そしてそういうお母さん方を支えておられる皆さん方というふうに聞いております。

この『ひざづめ談議』というのは、直接県民の皆さんに生の、本音の声を聞きたいと思いはじめていまして、今日で2回目になるわけですけれども、もうざっくりばらんに皆さんの普段思っていること、言いたいことをそのままお話しいただきたいと思っております。

子供の問題というのが、今、国にとっても県にとっても市にとっても大変に大きな問題になっております。

何といっても一つは少子化の問題でありまして、今のまま少子化が進むと今世紀末には日本の人口が半分になってしまう、来世紀末には日本がなくなってしまうということのようでありますから、どこかで歯止めをかけなければなりませんし、それから子供の問題といえづいこの間も自分のお母さんを殺して、首を持って自首したなどという信じられないような少年犯罪が起こるようになりましたね。やっぱり日本の子供がどこかおかしくなっているんじゃないかというふうに感じるわけです。

そういうことのためにも、お母さん方が安心して子育てが出来る、そして健全な子供が育つ、そういう仕組みを社会全体で考えていく必要があるというふうに思います。

私たちが子供の頃、今から30年、40年前というのは子供も多くて、そして周りにいわゆるコミュニテイというものがあって、周りのおじさんやおばさん、それからおじいさんやおばあさん、大勢そういう人たちがいて、そして親などは子供の面倒などは見なかったんですよ。私など親から面倒を見てもらったことがない。

ところが、そういう子供たちが色々やっているのを、周りの隣近所の人たちがよく見ている、何かおかしいことがあれば自分の子供でなくてもきちっと叱ったり、そうやって地域全体で子供を育てている、そういう感じがありまして、そういう中で子供たちは自然に健全に育っていくし、そしてお母さん方も子育ての負担というものをそんなに大きく感じないですんだわけなんです。

今はそういうものがなくなってきたものですから、その代わりにしていらっしゃるのが皆様方ボランティアの方々だというふうに思います。

やっぱり子供というのは家庭が、あるいはお母さん一人がこの子育ての負担をするのではなくて、地域社会全体で、子供は社会の宝という言葉がありますけれども、地域社会全体で子供を育てていくという、そういう仕組みを作っていくことが大事だというふうに思っております。

今日はぜひ先ほど申し上げましたように、皆様方が日ごろ考えておられる、感じておられることをざっくばらんに、本音のところをお話をいただければありがたいというふうに思いますので、よろしく願いいたします。

〔司会〕

本日出席しております県と市の関係の職員を紹介させていただきます。

まず、県の少子化対策全体を担当しております福祉保健部の横山理事です。

次は、県の子育て支援を担当しております宮島児童家庭課長です。

それから、市の子育て支援を担当しております横森子育て支援課長です。

それでは意見交換に入ります前に、司会から進行上のお願いを2、3申し上げます。

本日は甲斐市内で子育て支援を行っている皆様、それから現在子育て中の皆様と、「地域における子育て力について」をテーマに意見交換を行います。

この機会に子育て中のお母さんには、子育てで一番困ったこと、それから一番欲しい支援や手助け、子育てを支援いただいている方々には、活動は思うように出来ているか、また、より充実した活動を行うために必要なことはどんなことがあるか、そのような現状や課題についてお話しをいただきます。

それから、それらを克服し、地域全体で子育て支援をしていく力をより強いものにするためにどうすればいいか、また何が必要か、そういう観点からお話し合いを進めていただきたいと思っております。

また、意見を聞きながら気がついたことなど何でも結構ですので、思うところを自由に、活発に発言していただきたいと思っております。

本日いただいた皆様のお考え、それからご意見、これについては今後の県政の参考とさせていただきます。

また、皆様に県として回答する必要があるもので、本日回答出来なかったことにつきましては、後日、広聴広報課から回答させていただきます。

限られた時間ですので、参加者全員の方が発言出来るよう、要領よく発言していただきたいと思っております。

なお、本日の県政ひざづめ談義の内容につきましては、県のホームページなどで個人情報を伏せまして公表することとしておりますのでご了解いただきたいと思っております。

それではご発言をお願いいたします。

〔知事〕

ボランティアでサポートしておられるのは、こちらの半分の方ですか。

〔参加者〕

はい。

〔知事〕

ご苦労さんですね。

まだ始めたばかりですね、一昨年始めたんですね。

それでも急速に登録会員が広がっているということで、甲斐市は割と熱心にやっているようですね。

前のほうのお母さん方は、利用されておられるんですか。

〔参加者〕

はい。依頼会員です。子供は三人います。

〔知事〕

ファミリーサポートセンターというのは、やっぱり助かりますか。

〔参加者〕

とても助かります。仕事もやっているんですけども、ちょっと仕事で連れていけない時などはファミリーサポートセンターのほうにお願いしています。

〔知事〕

子供さんが三人おられると、なかなか仕事との両立が大変ですね。

〔参加者〕

そうですね。

〔参加者〕

今二人子供がいて育休中なんですが、結構上の子を預けるということが、下の子の検診とか風邪をひいたとか、そういう時に二人一緒に病院に連れていくことが出来ないから、上の子をお願いするということが結構頻繁にあって、とても助かっています。

今までこういう制度があるということも知らなくて、こういうのがあったらいいなと思っていたので、出来て直ぐ登録したんですが、それで結構利用もしていて、ちょっと前に、お金の面で補助が出るようになって、それで結構補助が出たので助かりました。

〔知事〕

補助金というのはどのぐらい出ているんでしょうか。

[参加者]

1回につき200円です。

[参加者]

現在1時間で700円で預けられるのが、その内の200円を行政（市）のほうで補助してくれます。

[知事]

やっぱり評判がいいようですね。

[参加者]

二人子供がいるんですけれども、一人目の時はまだこういう制度がなくて、甲府市などはもうその時点であったんですが、それで甲斐市にもあったらいいなとは思っていたんですが、二人目の出産の時には合併してその制度が出来ていたのですぐ登録させていただいて、産後は、上の子のお迎えですとか、下の子を預かってもらったりということに利用させていただいています。とても助かりました。

[知事]

特に問題もなく、皆さん満足しているんですね。素晴らしいことですね。

[参加者]

児童館の館長をしております。よろしくお願いします。

[知事]

甲斐市は割と児童館が多いですね。

[参加者]

はい、各小学校に大体あります。

[知事]

これはフルに使われていますか。

[参加者]

はい。ここなどは、スポーツが出来るので子供たちが喜んでバスケットをやったりとか、柔らかいボールのバレーとか、野球みたいなものも喜んでやっています。

[知事]

児童館というのは、いわゆる学童保育というのもやっているし、未就学児もおいでになりますよね。

[参加者]

午前中、乳幼児教室というのをやっております。

[知事]

母親クラブというのがあるそうですね。

[参加者]

児童館行事を後ろからサポートしている感じですね。

[知事]

色々な行事をしているそうですね。

[参加者]

そうですね、研修に出掛けたりとか、こちらでやっている児童祭りとか、夏祭りとかというものを後ろからお料理を作ったりとかというお手伝いをやって、でもサポートする側なんですけど子育てもしているんですね、みんな。ここで子供がお世話になっていて、そしてプラス自分の子供もお世話になっていております。

[知事]

前のほうのお母さんは。

[参加者]

児童館の幼児教室で体操を教えてもらったり、クリスマス会とか、色々催し物が月に3回ぐらいありまして、子供を今二人連れていっているんですが、上の子は毎週楽しみに、始めはあいさつも出来なかったんですが、ようやく児童館に慣れたみたいで、どんどん連れていったらあいさつも出来るようになって、まだおとなしいんですが名前も言えるようにもなりました。

[知事]

今子供同士で遊ぶということがなくなりましたからね。それはいいことですよ。

[参加者]

とても助かって、親同士の交流もありますので・・・。

〔知事〕

いいばかりですね。(笑い)

けどそういう仕組みを知っておられる皆さん、そして利用しておられる皆さんはいいんでしょうけれども、まだ知らない人も多いし、また何て言うんでしょうかね、性格が引っ込み思案でなかなかそういうところに出て行けない方とか、そういうふうな人も多いんでしょうね。おそらく甲斐市ですから、幼児というのは4、5千人いるんでしょうか。

何かこうしたほうが良いというようなことはありますか。

マスコミが取り巻いていますが、これはいないものだと思って下さい。(笑い)

〔参加者〕

甲斐市などはファミリーサポートがあるのでいいんですが、ないところは全く使えないわけですから、なるべく早くというか、他の市に住んでいたことがあるんですが、その時はなかったの、なるべく早くスタートさせたほうが良いと思うんですね。

そういうことはそれぞれの市の管轄であって、始めるにあたっての県からの援助とかそういうものはないんですか。

〔知事〕

これは国の援助があるんですね。

県の援助も入っているんですか。

〔児童家庭課長〕

あります。

会員が100人以上になりますと国の援助があります。

100人未満の場合は県での援助ですが、ただまだ全県にないんですよ。

19年4月1日現在でまだ8カ所です。

〔知事〕

ここ2、3年でばたばたと出来てきているんですね。だからあと1年すると全部出来るんじゃないですかね。どうですか。

〔児童家庭課長〕

県とすれば広めたいと思っていますけれども。

〔理事〕

市町村の考え方がそれぞれありますので、県は市町村のご理解をいただきながら提案していく立場かと思えます。

〔知事〕

やっぱりこれは一番いい制度といったらおかしいけれども、色々ありますけれども、やっぱり非常にいい制度だという感じですかね。

〔参加者〕

保育園とかというのは働いているお母さんとか入れなかったりとか、1カ月幾らとか、そういう感じでお金が決まっているんですが、ファミリーサポートの何が良いかというところ、子育てで急に何かピンチが来ることがあるんですよね、そういう時に急にお願いしても受けてもらえるというのか、それが一日限りでも見てもらえるというのがすごく良いところだと思います。

〔知事〕

一日限りでもね。そこがフレキシブルなんですね。
かなり無理なことを頼んでも大丈夫なんですか。
旅行に行きますから2、3日お願いしますなどということも。

〔参加者〕

そうですね。
明日お願いしますとか、明日8時間お願いしますとかと言われたことがあるんですが、そういうことでも何とか担当の方が色々検討して下さって、かなりきめ細かく対応してくれるので、それがすごくいいと思います。

〔知事〕

その依頼会員と支援会員とをマッチングする人が誰かいるんですね。

〔参加者〕

それはファミリーサポートセンターの職員の方にマッチングをさせていただいています。
ファミリーサポートというのはどんなことをしているのか具体的なお話をしますと、家族のライフスタイルによって子育て支援の形というのも様々でして、もちろん小さいお子さんがいて、上の子が病気になっちゃって病院に連れていくから下の子を見てほしいという、そういう単発的な依頼もありますが、保育園というのは7時まで預かって、今、大体町内は7時まで延長保育があると思うんですよね。
いざ小学校1年生になると児童館の放課後の「さわやか教室」というんですが、そこに入ったとしても児童館は6時で終了ということになります。

そうすると7時まで預けて今まで仕事をしていたお母さんが、その後の1時間というのがなかなかお仕事から戻れないとかということがありまして、今私がしている主な仕事は放課後児童館が終わると子供を迎えに行き、私が自宅に連れて帰ってお母さんが仕事場から私の自宅に迎えに来てそして帰っていくという形がほぼ毎日誰かどうかいっているということです。

〔知事〕

夜7時までですか。

〔参加者〕

そのお母さんの仕事状態によって、うちの場合は9時過ぎまでいる場合もあります。

〔知事〕

その時は食事もお子さんに出すんですね。

〔参加者〕

時間が長くなる場合は夕飯も有償で出します。

ですから本当にファミリーサポートというのはすごくきめ細やかで、そしてその人にあったサポートが出来るという面ではすごくいいんじゃないかなということと、先ほどもありましたが甲斐市の場合は1時間200円の補助がつきますので、毎日預けるといふとかなりの額になってしまうんですが、金銭的な面でもサポート出来ているんじゃないかなと思います。

〔知事〕

しかしよそのお子さんですから神経使いますね。

〔参加者〕

そうですね。でも私も子供がいますので、子供たちが一緒に遊んだりとかして、うちの子供のためにもいいのかなというのがあります。

〔知事〕

後ろの奥さん、どうですか。

〔参加者〕

私が思うのは、やはり働いているお母さんであっても、それからお家にいらっしゃるお母さんであってもお預かりする時、私たちはボランティアの気持ちでもちろんやっておりますけれども、お金をいただきますよね、先ほどからお話にもありましたが、そして市から1時間200円の補助がありますよね。

それが3時間預けた分までなんですよね、それ以降のものは200円の補助は出ないんです。

それで一日預けるお家、それから5、6時間というお家、お仕事の場合は結構そういうふうに長時間に預かることが多いんですよね。

そうすると結構な金額を私どもいただきます。

〔知事〕

そうですね。

一日仮に10時間預ければ3時間分しか補助がないとすれば、7千円とか8千円ぐらいですね。

〔参加者〕

そうですね。そうするとやはり私たちもちょっと・・・。

〔知事〕

申し訳ないと・・・。

〔参加者〕

そういう気持ちになりますね。

ですので出来たら全て、6時間でも8時間でも10時間でも200円の補助を出していただけるといいかなと思います。

それからもう一つは、一番心配なのが預かっているお子さんに怪我があってはいけない、何かあってはいけないというのをものすごく神経を使うんですよね。

それで市で、やはりお金には代えられないんですが保険に入って下さるとというのが本当に気持ち的にも助かります。

〔知事〕

民間のベビーシッター制度みたいなものを行っているところがあるんじゃないですか。この辺にはあまりないんでしょうか。

都会ではそういうことがよくあるけれども、やっぱりここは正にそういうファミリーサポートセンターでそういうことをやっているということですよ。

そちらの方は、どうですか。

〔参加者〕

私は10年ぐらい前に他県のほうから転勤で山梨のほうに越してきました、入園前の男の子が二人いたんですけれど、もう知り合いもいなくて、どうしたらいいんだろうという生活が続いていた時に、周りの近所の方にとっても助けていただきました。

当たり前のように自分自身も周りのお子さんたちの面倒を見たり、子供が具合が悪い

ので上のお子さんを病院に連れて行くという時に下のお子さんを預かったりとか、そういうことを周りで、近所で助け合いながらやってきましたので、10年ぐらい前からそのような制度があれば色々助かったなと思いました。

〔知事〕

当時も周りの人が助けてくれましたか。

〔参加者〕

私が住んでいたのはアパートでしたので、同じ子育てをしているお母様方ですとか、近所のお母様が、ワーワー泣いている声に見かねて助けていただいたんですが、とてもその時の感謝の気持ちがありますので、逆に今回はサポート会員としてお手伝いさせていただいております。

〔知事〕

山梨県というのは子供の犯罪が少ない県で、全国でも一番少ないんですよ。

色んな県で何か信じられないような犯罪が起こったりすることがありますが、あまりないんですよ。

だからまだ山梨県の場合には周りで子育てを助けるような、そういうところがあるのかもしれないですね。

〔参加者〕

うちの子供は上は二人中学になって、下が今4年生なんですけど、すごくたくさん事件があったので、帰り道に何かされるじゃないかと、そういう心配というのはありました。

けれども、私が住んでいるのは富竹新田4区という地区なんですけど、そこでは毎日ではないかもしれないんですが老人会の方が立って下さっているんで、そういうのは安心だなと思います。

〔知事〕

確かに老人クラブの人たちが学校の行き帰りの子供を守ってくれていますね。

〔参加者〕

他でもやってくれているようです。

〔参加者〕

うちも子供が二人いまして、まだ上が年中さんで下は2歳なので、まだそういったことには関係ないんですが、前は〇〇市の社宅に住んでいて、小学校もすごく遠くてちょっと不安だななどということもあったので、今度甲斐市に引っ越してくる時はなるべく

小学校、中学までは家から近いところがいいな、などと思って探しました。

幸い玉幡小学校と中学校の真ん中辺りに引っ越してきたので、両方とも近く、そんなに距離的にもないので、みんなと行けばちょっと安心なのかなとも思っています。

まだ先のことなのですが、ニュースとかでそういった子供の事件とかがあると不安なので、今からしっかり上の子には色々知らない人には必ず声を掛けられてもだめだよとか、そういうところは今のうちから訓練はしていきたいなとも思っています。

〔知事〕

そうですね。

〔参加者〕

私も二人子供がいるんですが、もうすぐ10カ月と3歳になります。

こちらのファミリーサポートセンターはとてもいいところで利用させてもらっているんですが、やっぱり2、3時間が金銭的にも限度なんです。

英会話を教えたりしているので、2、3時間ちょっと預けて帰ってきてという時はいいんですが、一日仕事に行かなければいけない時が月に1回とか2回とかあるんですが、そういう時に先ほど〇〇さんがおっしゃっていたように一日二人預けると金銭的に仕事に行く意味もなくなってしまうので・・・。

〔知事〕

それはそうですね。

〔参加者〕

なので市内の保育園も一時保育というのを一応やっていますというので問い合わせしてみるんですが、一日1,800円ということですので問い合わせると、「一杯です」と言われて預かっただけなので、そういう時はもうちょっと何かいい方法があればいいなと思います。

特に未満児はいっぱいですと言われます。数時間の時はいいんですが、長時間の時にそういうサポートが何か・・・望み過ぎかなとも思うんですが・・・。

〔知事〕

奥さんのような優秀な人が働こうと思うと本当に大変ですよ。三人目などはとても無理ですね。

〔参加者〕

望み過ぎかなとは思いますが、あればいいなというのがありますね。

〔知事〕

そうですね。分かりますね。

〔参加者〕

うちは今一人目で1歳4カ月の子がいます。

玉幡児童館に伺っているんですが、家のすぐ近くにありまして、この4月から幼児教育でお世話になっています。

それまで割と家に娘と二人でいることが多かったのですが、そういう教室を通して同じぐらいの子供がいるお母さんたちと出会うことが出来ました。

色々困ったこととかが相談出来たり、また幼児教室がない日でも一緒に公園に出掛けたりして、普段の子供の遊び相手にもなっていただけたり、心配事とかもそこで解決出来たりするので、とてもそういうことでお母さん方と出会えたということで近くにそういうものがあつたのでとてもありがたかったです。

サポートセンターの話を伺ったので、そういうのをこれからまた二人目などが出来たりした場合は利用していけたらいいなと今思っています。

〔知事〕

やはり奥さんの周りにはそういう制度があることを知らない人とか、知っているけれどもしかし性格的にそういうのが嫌で、そういうところに出られなくて一人で子育てをしているとか、そういうふうな人もいらっしゃるのでしょうか。

〔参加者〕

具体的な話を今初めて聞いたので、こういう場に参加出来てよかったと思うんですが、やっぱり知るきっかけがそんなにないかなと思うんですね。

広報などにも載っているのかもしれないんですが、いざ自分がそういうのを使えるんだというのでも分からなかったですし。

〔知事〕

若いお母さん方は忙しいですね。

市の広報など、くわしくは見てもらえませんものね。

〔参加者〕

私は今幼児教室に参加させていただいているんですが、私も今日初めてファミリーサポートセンターのことを聞いたので、これからちょっとした時に利用させていただこうかなと思いました。

〔知事〕

何か今仕事はしておられるんですか。

[参加者]

していないです。今子育て中です。

[知事]

仕事をしておられる方ももちろん何人か、会社勤めの方もおられるんですよね。会社勤めの方は会社は子育てということに対して理解がありますか。子供が生まれたら辞めてくれなどというところがまだあるらしくて・・・。

会社にお勤めになっている方は何人かおられるんですか。どうですか。

[参加者]

うちは理解をして下さっていきまして、やっぱり小学校とか保育園とか色々行事があるんですが、早く出してはくれますね。熱とか急に出たりするとすぐ電話が架かってくるんですが、「早く行ってあげて」と言ってくれるので、ありがたく思っています。

[知事]

奥さんもやっぱり会社勤めですか。

[参加者]

急にというと難しいんですが、行事などは先に何日と何日にと、うちは小学校、中学校、高校と三人別々なので行事もそれぞれにあってすごい回数なんですが、先に言っておけばお休みはいただけるので助かっています。

[知事]

三人お子さんがおられるんですか。

[参加者]

はい。

[知事]

それは大したもんですね。

[知事]

こちらの方は。

[参加者]

今、児童館の館長をさせていただいております。

〔知事〕

どうですか、先生の児童館は。

〔参加者〕

そうですね。小学校に近いので本当にすぐただいまと帰ってくるんですが、今どこの児童館もそうなんです、低学年の子たちの受け入れが学童保育のほうの受け入れが増えてきていますね。今どこも本当に定員一杯、定員をオーバーして、まだ待機児童という形で、保育園もそうなんです、それだけ働く方が増えているなというのが実感です。

〔知事〕

保育園も足りませんか。保育園もまだ待機児童がおられるんですか。

〔参加者〕

甲斐市の場合にはほとんどいないですが、それでも定員はもう一杯状態で、特に未満児の方は一杯ですね。

先ほどの一時預かりという制度ですが、甲斐市の場合は全部保育園に一時預かりの制度は受けてはいるんですが、やはり未満児のほう一杯ということと、あと職員がそれに手がいてしまいますので、保育園に今日はちょっとゆとりあるなという時に受けた経験もありますけれども、ちょっと今日は一杯なので受けられませんか、申し訳ないという気持ちで断ることが結構多いですね。

だからこういったファミリーサポートセンターが今度出来たので、そちらに相談してみたらということが出来るので、その点はいいいんじゃないかなと、良かったなと思います。

〔知事〕

そういう児童館相互の連絡とか、ファミリーサポートセンターとの連絡とか、横の連絡とかということはよくやるんですか。

〔参加者〕

まだファミリーサポートセンターは出来て間もないんですが、児童館などにも広報を置いたりとか、あと情報提供するものを置いたりという形の中で横のつながりなどはあります。

〔知事〕

あと発言をしておられない方は・・・。

〔参加者〕

私は児童厚生員をしております。

甲斐市では第一番目に昭和61年の10月1日に児童館を開館いたしまして、その時のスタッフとしまして今も現在児童厚生員をさせていただいています。

はじめに幼児教室を始めましょうということも私が提案いたしまして始めたんですが、最初は12組の親子の教室だったんですが、年々、今では700組以上の利用があるというのが現状です。

やはり、お母様方の引きこもりですとか、子供への虐待ということを考えて、週1回1時間でも外に出てきてリフレッシュしていただくことで、またお母様方の子育ての参考のアドバイスが出来たらと思ひまして、このような形で行っています。

〔知事〕

幼児教室をお作りになったんですね。大したものですね。

甲斐市は割と児童館がたくさんあるし、活発ですよ。今11あるんですか。

それはやっぱり先生のような立派な人がいるから・・・すごいな。

〔参加者〕

私も児童館でお世話になっているんですが、先ほど皆様のファミリーサポートの経験ですとか、こういうことが出来るんですよとかというお話を伺って、ああって今日初めて知ったことが多いんですね。

先ほどお話にも出ましたけれども、広報にもファミリーサポートの内容が少し書いてあって、協力会員の方、依頼会員の方と書いてあるんですが、文章を読んだだけだとどんなことをお願い出来るのか、どんなことをどういう感じでというのが分からなくて、だから今日ここに来れないでそういうふうに文書だけで見ているお母さんがきっと多いと思うんですね。

ですからこういう広報みたいな堅い文書でなくて、こういうパンフレットみたいなものとかをどこかに置いていただくとか、あとは検診とかに私たちは3カ月とか半年とかセンターに行くじゃないですか。そういうところで、そういうことがありますよみたいなことを教えていただければ、もう少し早く具体的に分かったのかなと思うんですが、そういったことは難しいですかね。

〔知事〕

そういうPRが大事ですよ。

何か今度やろうとっているんですが、奥さん方は必ずスーパーとかショッピングセンターに行くわけで、スーパーやショッピングセンターの分かりやすいところに相談窓口みたいなものがあって、そこで色んなことを教えてくれるようにすればいいんじゃないかというようなことを言っているわけです。

〔児童家庭課長〕

「まちかど子育て応援団」という事業がありまして、誰でもスーパーに行きますよね、そこで相談をしたり、というようなこともやっていますが。

〔知事〕

そういうことをそのスーパーのほうに協力してもらってやればいけないんじゃないかと思えますよね。

そうしないと知らない人が多いですしね。それについて引込み思案でなかなか参加出来ない人が多いでしょうからね。

あとどうでしょう、そういうこと以外で何かありますか。

〔参加者〕

知事が先ほどからファミリーサポートセンターをうまく利用出来ない性格の方がいるんじゃないかと話されたんですが、友達がやっぱりそうで、ファミリーサポートセンターの存在は分かっているんですが、どんな人をお願いするかとか、あと個人的な付き合いになるわけじゃないですか。

そうすると一般的な保育園とかのほうの方が預けやすいという方もいるんですよ。

私の場合はたまたま散歩をしていたらとてもいい方と巡り合えて、その方が協力会員の方だったので、この方だったらいいなというのがあったので安心して預けることが出来たんですが、そういうのが不安に思っている人とか、いざ利用してみないとどういものか分からないというのがあると思うし、その協力会員さんと話す機会もなければ安心して預けることが出来ないという人もいると思うんですよ。

だからそういう場が、協力会員さんの方と依頼会員さんの方と話し合う場とかがあれば、もうちょっと預けてみようかなとか利用する人数が増えるんじゃないかなという事を一つ思っています。

後は、職場復帰したくてもなかなか職場復帰出来ないという理由に、長時間依頼すると高額になってしまうということが助成制度の制限であるということと、病児保育はファミリーサポートセンターではしていただいている方はしていただいているんですが、保育園などの一時保育などでは7度5分とか過ぎるとどうしても帰されてしまうというか、預かってもらえないというのもあって、産後ちょっとしたら職場復帰したいけれども出来ないからまとめて産んじゃおうとか、結局はそのまま3年間とか4年間とか空いちゃって、それで職場復帰しないという形になってしまったりするみたいなので、もうちょっと一時保育というのも、特に竜王町とかのほうでは何か余り保育園とかで1歳未満児とか、一杯になってしまって、本当に利用出来ない状況になっているみたいなので、その辺を考えていただければいいかなと思いました。

〔知事〕

保育園がもっと利用しやすければそれが一番いいということですね。

〔参加者〕

その方の考え方にもよるとは思うんですが、保育園とかだと集団になってしまうので未満児とかだと個人的に見ていただいたほうが安心出来るというお母さんもいると思うんですよ。

そういう考えで信頼出来る方に見ていただきたいという場合は、こういうファミリーサポートセンターとかを利用されるのが望ましいとは思うんですが・・・。

〔知事〕

ある程度ファミリーサポートセンターの場合には協力会員さんと依頼会員さんとの間で、まあ相性みたいなものがある程度ありますからね。

〔参加者〕

ファミリーサポートセンターの方が相性を見ながら、必ず複数、一人の依頼会員につき三人ぐらい協力会員を会わせるという形で、その中で依頼会員の方は協力会員の方を選べます。

そういうシステムみたいなものも多分広く知れ渡っていないかもしれません。

それから先日でしたが、依頼会員の方と協力会員と一緒に合同で話す場も、そういう機会もファミリーサポートセンターのほうで設けてはいますが、やはり児童館に来ているお母様方ですが知らないということが、ちょっと今私もびっくりしたんですが・・・。

〔知事〕

そうですね。

児童館に来ておられる幼児教室のお母さん方が知らないんですからね。

〔参加者〕

それで事前に打ち合わせというのがあって、協力会員と依頼会員で、まあ急な場合はその時間がないことも結構あるんですが、時間があってこの日に預かってほしいと分かっている場合には、あらかじめ打ち合わせをする時間がありまして、そのファミリーサポートセンターの職員の方と依頼会員と協力会員の三人で打ち合わせをして、子供のことでこういうことに気を付けて下さいとか、子供と一回来てみよう、場所にも慣れたりするので、時間があればそういうふうに先にちょっと話してみて、この方と自分の子供が合わないわというふうに思えば、余裕があれば他の方、ちょっと今回お断りしますということでファミリーサポートセンターが間に入っているのでお断りすることも、直接お断りというのはしにくいと思うんですが、ファミリーサポートセンターのほうにお断りすることも出来るので、それは間に入っているのがすごくいいと思うんです。

〔知事〕

やっぱりおっしゃるように色々な問題があることに対しては工夫をしておられるんですね。

[理事]

この機会ですから、一点聞かさせていただいてよろしいでしょうか。

地域のそういうサポート制度というのは段々確立されてきて、利用する方も増えていきます。

ただ、子育てというのは妻だけがするものではなくて二人でしていくものなんですが、夫たる方のご協力というのがどの程度あるのかということと、それにはご主人がそういう中に入り込める企業体制というものの必要性。制度などは確立されていますけれども、やはり取れない環境とかあると思うんですよね。

そんなところはいかがなんでしょうか、皆様方のお宅は。

[参加者]

私がお預かりしているご家庭は夫婦共働き、フルタイムで正社員という方が多いので、もう旦那さんのほうも結構積極的に育児に参加なされていて、風邪で休む時は旦那さんのほうから連絡があったりして、僕が迎えに行くからいいですみたいな感じで、お迎えもお父さんのほうがお迎えに来る場合もあります。

共働きをずっとされているから子育ても一緒という方が多いのかなという感じがします。

[理事]

役割分担をきちっと・・・。

[参加者]

職場に近い遠い、その距離ということもありますし・・・。

[知事]

この間新聞に出ていましたけれども、フランスへある人が行って子供を保育所か幼稚園かに預けたら、朝、子供を保育所まで連れてくるのはお父さんばかりだと言っていましたね。

やっぱりそのぐらいにならないとだめですね。

保育所はどうなんでしょうか、お父さんが連れてくる割合とお母さんが連れてくる割合というのはどのぐらいでしょうかね。

[参加者]

昔は本当にお母さんばかりだったんですが、この頃、結構若いお父さんなどは協力的ですね。

保育参観とか、各保育園などの行事も結構ご夫婦で、お父さんもお母さんもみたいな形で、ご夫婦で来られる方、子供一人なんだけれどもお父さんと一緒に二人で来ていいですかみたいな、そういう方は増えてきてはいます。

その反面、仕事が忙しくて出たいんだけども出ることが出来ないという、もちろんそ

れはその企業の状態にもよるんでしょうけれども、そういう方もいますが、昔より協力するお父さんたちの姿は見えるようになってきていますね。

〔知事〕

段々いい傾向になってきますね。

〔理事〕

ぜひそういう方が増える環境になってほしいなというふうに思っています。

〔知事〕

やっぱり一番ご心配なのは子供さんが病気になった時とか、そういう時なんでしょうけれども、乳幼児医療無料化の問題だとか、それから子供の救急の問題とか、あるいは最近産婦人科が足りなくなるとか、そういうことはあるんですが、そういうことはどうですか。

この辺は産婦人科は十分、まあまあある、小児科もたくさんあるんでしょう。小児科は大丈夫ですか。

〔参加者〕

あります

〔知事〕

やっぱり多いですねこの辺りは。

〔参加者〕

小児救急センターというのが今度出来たんですよ。
出来たんですが一つしかないの、夜中に行くのが大変なんですよ。
子供は具合悪いし・・・。

〔知事〕

甲府にあるんですけどもね。甲府市の医師会ですね。

〔参加者〕

南甲府駅の近くにあるんですが、そこに一つしかないの、子供が具合が悪い時に緊急で車を運転して連れて行くのがすごく大変に感じました。

例えば電話相談だけでも、電話の対応だけで済むような内容の場合もあると思うんですよ。

それとかお医者さんに話を聞いてもらったら、じゃあこうしてみてくださいとかと言われて、してみたら落ち着いたとかというようなこともあると思うので、そこに行かなければならないということをもう少し、例えば韮崎とか、もう少し離れたところに何か所

かあるといいと思います。

〔知事〕

この国中地域に一つあるだけなんですね。

郡内のほうにはなくて、これが郡内のお母さん方が心配の種でしてね、夜間とか土日とか、そういう時に子供に何か問題が起きた時には、御殿場とか、あっちのほうに連れて行くんですが大変ですね。

これから造ろうとしています。

ただ夜、それから土日ですからね、お医者さんを確保するのが大変で、あまりたくさんあちこちにはできません。

そもそも小児科医さんというのは非常に少なくなりましたからね。

〔理事〕

相談業務は今度始めます。

小児救急センターの中に相談業務を入れ込んでます。

〔知事〕

そうですか。

相談業務を始めるようになるそうです。

〔理事〕

ですから事前に電話をしていただいて様子をお話して、その状況でドクターに看ていただくような形に今度は大体なるんじゃないかというふうなお話でした。

わざわざ行かなくても電話をして、状況によっては指示を得るような形が取れるんじゃないかと思います。

〔知事〕

あとはどうでしょうかね。大体今の制度を、まあ幾つか問題点はありますけれども、充実していけばいいような感じですね。

さらに何か造らなければいけないというようなことがあるんでしょうけれど。

やっぱりPRが、まだ不足しているという感じが強くしますけどね。

〔理事〕

とにかく分かりやすい情報提供を心掛けて行くということですね。

〔参加者〕

ちょっといいですか。

医療費の助成金なんですが、甲府市とか山梨市は小学校6年生までもらえるんですが、甲斐市では5歳未満。

そういうのは県で統一とか出来ないんですか。

これは甲斐市の方針かもしれないんですが、子育てで子供が多いと6年生までもらえるのはありがたいので、子供は風邪とか病気とかけがをしやすいので・・・。

〔知事〕

甲府市は6年生までですね。山梨市もやっていましたか。

〔児童家庭課長〕

道志村などもやっていますね。

〔知事〕

お金がかかりますからね。

これは市町村がそうすれば県は半分出すというような格好になって、市町村の判断次第になっています。

〔参加者〕

乳児医療なんですけど、今子供がかかったら乳児医療の申請書というのに書いて領収書を付けて翌月の10日以降に提出しているという形なんですけど、甲府とかはもう最初から窓口無料。

届けを出しに行くという行為もたまにおっくうになっちゃって何ヶ月もたまっちゃってということがあるんですけど、そういうことも手間暇かけて行くというのもあれなんで・・・。

〔知事〕

窓口医療無料化とって、おっしゃるように自分でお金を払って領収書もらって、次の月に役場に行くんですよね。それを小児科の窓口でただになればということですね。

それは来年度からそうすることになっております。

〔参加者〕

けっこう忘れて何枚も溜まって・・・。

たまに出しに行くと、ちょっとためすぎですねなんて言われたりするんで・・・。

〔知事〕

ただ窓口無料化というのをやると、かなりの県でやっていますが、ただなものですからただより安いものはないですから、何かあればすぐ小児科に連れて行くんですね。

ただでさえ小児科が忙しくて仕方ないわけです、まあ大変なんですね。

それからそれだけ医療費も高くなるということがあったりして、なかなか難しい問題があります。

来年度それはやります。

〔司会〕

発言なさっていない方は・・・。
どなたか育休中という方もいらっしゃいますか。
いつから復帰するとか・・・どうですか。

〔参加者〕

4月から復帰予定なんですけど、今は自分が二人子供がいて自分が見られるから、それで困った時は協力会員さんをお願いするという感じで、そんなに不自由なくやっているんですが・・・。

〔知事〕

ご主人も育休はお取りになったんですか。

〔参加者〕

取っていないです。
4月からいざ復帰すると子供は病気にもなると思うし、そういう時に何回も職場でお休みしますというふうに言いづらくなるだろうしという漠然とした不安を抱えています。
実際子供が病気になってどうしても仕事を抜けられないという時に、また協力会員さんをお願いしたいという時も協力会員さんもいつも空いているというわけでもないと思いますし、そういった時にどうしたらいいのかという漠然とした不安は今も抱えています。

〔知事〕

協力会員さんはまだどんどん募集すれば増えるという感じですか。

〔参加者〕

増えていくと思います。
今も依頼会員さんが知らなかったということがありますので、協力会員もアピールを色々していただいて、色んなところに声を掛けていただくと、段々増えて行くと思います。

〔参加者〕

私は協力会員ですが、やはり依頼会員さんは他の条件がなくても依頼出来ますよね。協力会員は自分の家でお預かりするわけですよね、そうすると家族の協力が本当に大事になります。
ですから依頼会員さんが増える程は協力会員さんはそれほどは増えないんですよね。私が友達や仲間に声を掛けても、やはりお孫さんを見ているとか、それからいろんな

条件があって、なかなかお家でよそのお子さんをお預かりするということが難しいんですよ。

それで今、〇〇さんのお話にあったように、病気の時に協力出来るという方は、その中のうちの全員じゃないんです。

ですので先ほどお話がありましたように、依頼会員さんのアピールも出来ますけれども、協力会員さんが大勢いらっしゃらないと、きめ細かな対応が出来ないんですよ。

私は敷島ですけれども、遠くの地域の方に依頼されることもあるんですよ。

そうするとお子さんを連れて来たりするのが大変ですから、地域に協力会員さんに増えていただくと、急の対応ですよね病時の時は、そうするともうちょっときめ細やかな対応が出来ると思うんですよ。

病気のお子さんは重なってお預かりすることが出来ないんですよ、うつってしまうということがあるので一人だけなんです。

だから一緒に協力会員さんのアピールもしていただくと、より充実したものになるかなと思います。

〔知事〕

おっしゃるとおりで、協力会員さんというのは、本当にいい家庭でなければそういうことは実際なかなか協力出来ないですよ。

〔参加者〕

家族の協力がないと出来ません。

〔参加者〕

ファミリーサポートのシステムとかもすごくいいなと思うんですが、中には自分の祖父母、自分もしくはご主人側の祖父母に預けているお母さんもいると思うんです。

前にテレビで見たんですが、他県ではそういった祖父母に対して子育ての仕方を教えるというのをやっている。

昔と今とではちょっとした育て方が違うということで、昔は厚着をさせたりとか結構色々あったんですが、今はそういうのは小さい子を薄着で育てるとか、そういうのが常識になって、昔と今とでは常識が違うということもあるので、そういったおじいさん、おばあさんを集めて、その各地域で子育ての仕方というのか、お孫さんを見る育て方の講習会をやっているというのを見たんです。

だからファミリーサポートセンターの充実もそうなんですが、それとは別にやっぱり金銭的に余裕がない家とか、近くにおじいちゃん、おばあちゃんがいる家は、多分そういうところに預けたりする人もいるので、そういったおじいちゃん、おばあちゃんに対しても子育ての、今はこうなんだよということとか、出来るんだけど忘れちゃっている部分も結構あると思うので、おじいちゃん、おばあちゃんに対しても色々教えてあげるとい、講習があったらいいなと思います。

〔知事〕

なかなかお嫁さんがおばあちゃんに言えませんか。
誰かがきちっと教えてやる必要があるでしょうね。

〔参加者〕

自分のお孫さんでなくても、例えばそういうファミリーサポートセンターのほうでまた登録していただいてもいいんじゃないかなと、知っている人もいるかもしれないんですが、そういった仕組みというか、もっと充実させていくほうがいいなと思います。

〔知事〕

児童館でもどうでしょうか。おじいさん、おばあさんを教育するのは・・・。

〔参加者〕

行事の時にはおじいちゃん、おばあちゃんにも、餅つき時には協力してもらったりとか、伝承遊びみたいなものやってももらったりはしていますが、子育てのほうまではちょっとまだやっていないんですが・・・。

〔参加者〕

私は依頼会員ではあるんですが協力会員でもありまして、両方会員という形で今登録しています。

登録した時に、最初の時に講習会があるんですけど、救急の心肺蘇生のそういう講習会を実際に消防署の方に来ていただいてやるということとか、そういう対処の仕方というのはやっているんですが、子育てに関しては人それぞれ色んな違いがあって、若い人のやり方、年配の人のやり方、やはりそれぞれあると思うんですが、その方にある程度、見ていただくだけでもありがたいという気持ちでいます。

あと、終わった時に、今日はこんな様子でしたよ、こんなことが出来ましたよと、これを食べましたとか、細かく協力会員の方が言って下さるので、今は安心して預けることができます。

〔司会〕

発言なさっていない方はいらっしゃいますか。

今日は子育てのテーマでしたけれども、子育て以外で何か知事さんにお聞きになりたいことがありましたらどうぞ。

ないようでしたら、今日はこのぐらいにしたいと思います。どうも大変協力ありがとうございました。

知事さんから一言、感想などをお願い致します。

〔知事〕

貴重なお話を伺いましてありがとうございました。

ファミリーサポートセンターとか、それから児童館とか母親クラブとか幼児教室とか、そういう仕組みが色んな問題は抱えながらも立派に役割を果たしていて、そしてそういうものをもっときめ細かに、それからPRも十分しながら発展をさせていけば、子育ての問題というのは非常にいい姿になるんだなということが分かりまして、大変に勉強になりました。

皆さんのご意見を参考にさせていただきながら、もっともっと若いご夫婦が安心して子育てが出来るような、そういう山梨県にしていきたいというふうに思いますので、これらもよろしく願いいたします。

どうも皆さん、ありがとうございました。

〔司会〕

今日はどうもありがとうございました。

----- 終了 -----